

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090300375		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホーム サンシャインあいおい		
所在地	群馬県桐生市相生町4丁目33-4		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.sanikukai.com/">http://www.sanikukai.com/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日散歩をし、季節を感じて頂くと共に、筋力維持に努め、体内リズムを整えている。</li> <li>・買い物やドライブに出掛け、気分転換をして頂いている。</li> <li>・掃除や洗濯物干し、食器拭きなどをスタッフと一緒にしない、生活リハビリを行っている。</li> <li>・活動的な利用者様が多いので、活気がある。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>理念は、開所に関わった職員で話し合い、頭文字に所在地の地名「あいおい」から始まる4つのフレーズで構成された文章で作られ、覚えやすく、振り返りやすく出来るよう工夫されている。運営主体である医療法人は、年2回、個々の職員から運営等に対する意見・要望を聞き、事業所毎にまとめて代表者と経営者で話し合い、職員が働きやすい職場環境整備に努めている。その他、利用者の担当職員が月1回のモニタリングを実施し、介護計画作成の一端を担うなか、介護計画作成担当者を含む全職員が話し合っって介護計画書を作成し、統一したチームケアを実践している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達で理念を考えて、玄関、事務所に掲示し、共有していけるよう努めている。	法人で掲げている「安心・信頼」の理念を受けて、独自に施設理念を作成している。地名である「あいおい」を頭文字にして、職員が覚えやすいように理念を作成している。開所して1年未満なので、理念を通しての業務を振り返りたいと考えている。	理念を作成した時の職員がほとんどいない現状のなか、改めて理念の目指すところを全職員で再確認して、目指すケアに向けて取り組まれるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りを開催し、地域交流を図っている。散歩の時は積極的に挨拶し、交流を深めている。	利用者と近所を散歩する際には、積極的に挨拶することを心がけている。また、事業所内の1室「地域交流スペース」で、外部訪問時に近隣に声かけして、地域の方も招待しての交流を図っている。今後、家族の交流など、幅広い交流の場を確保するため、現在「認知症カフェ」の開設準備を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースとしてホールを設置し、包括支援センターや近隣の人、町会長や民生委員へ自由に使用してもらえるよう声掛けをしている。 ホールで認知症カフェ実施予定。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、安心館あいおいと合同で会議を行い、行事、外部評価、防災訓練等の議題を設け、相談し合っている。又、ひやりはつとや事故報告をし、意見を伺ってサービス向上に活かしている。	隔月(偶数月)の第3水曜日午後1時半に、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、運営推進会議を開催している。議題は年間行事等に即して決め、事前に連絡している。この他、ヒヤリハット等業務報告を行い、事業所の現状の理解を深めてもらうよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から市役所に行った際に、担当者へ相談したり、運営推進会議時に意見を伺ったりして協力関係作りに努めている。	法人役員が、頻繁に役所に出向いて、担当課職員と協力関係を図っている。また、管理者も認定更新時の申請や、市外利用者受け入れ相談時等に出向くなど、各種相談を行っている。	開設して間もないからこそ、積極的に施設運営について説明するなど、多くの機会に働きかけることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、安全を確認しながら開錠するよう努めている。	現時点では、身体拘束が必要な場面に遭遇していない。玄関の施錠については、職員勤務等の事情で、利用者の安全を考えながら行っている。	現在は、「身体拘束をしないケア」を職員が意識する場面が想定できないが、職員間で話し合う機会をつくり、理解を深めていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について防止していく事、どんな事が虐待かという事を勉強会に参加している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、制度について勉強する機会があったので知っている。 現在は、必要としている利用者様がいませんが、今後の為にスタッフと共有したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはマニュアルに沿って説明し、話をよく聞き、相談窓口も紹介している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見を伺えるように努めている。直接お話し頂いた意見や要望は、上司に報告・相談し反映出来るよう努めている。	利用者や家族に、ケアに対する意向の確認を行っている。開所して1年未満なので、施設運営に関する意向を聴取し、その反映までには至っていない。	開設して早い時期だからこそ、事業所から利用者・家族に運営に対する要望を聞く取り組みを能動的に行うことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回経労協議会を開催し、職員団体の代表と意見交換する機会を設けている。	施設運営や職員待遇について、個々の職員から聴取し、事業所毎にまとめ、年2回の法人の協議会で、直接経営者と意見交換する機会がある。今まで、退職金制度の見直しや育児休暇延長等、働きやすい職場づくりが実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、賞与の時期には、人事考課制度を活用し、給与水準に反映させている。 毎年、職員全員がチャレンジシートを書いている。 代表者、管理者は労働安定センターの講義を受け、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各施設で研修委員を置き、職員アンケートをもとに必要な研修を年間で計画して実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、勉強会や行事等で各部署の職員と交流する機会を設け、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族より、今までの生活歴を伺い、困り事や不安について把握出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時点で、現在の暮らしについてや今困っている事、不安な事が聞けるよう関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を提供出来るよう、自施設のサービスだけでなく、他施設や他の介護サービスの提案・紹介が出来るような体制である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、利用者様の生活の流れの中で掃除・お茶入れ・食器拭き等の出来る事は支援しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に今までの本人の暮らし方や、ご家族が本人に出来る事を聞き取りながら、共に支えていけるような関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの関係を続けていけるよう、面会の受け入れや美容室、他者への面会を受け入れている。	入居時行うアセスメント、面会や日常会話から利用者の馴染みの人や場所を記録し、利用者の要望に応じて外出等の支援を実施することで、わすれていた記憶の再認識ができ、安心した生活環境づくりに繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の利用者様同士の関係を配慮しながら関わり合いが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気で入院した場合は、面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合い、状況を把握しながら今後のフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人がどのように生活していきたいか希望を聞いたり、思いを汲み取りながら意向の把握に努めている。	利用者に嗜好調査を行い、食べたい料理の確認をし、楽しい時間の実現を図っている。また、利用者が家族と外出して事業所に戻り、家族が帰ってしまい寂しそうな表情をしている時などは、職員が積極的に会話するなど、利用者の気持ちに寄り添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に今までどんな暮らしで、どんなサービスを利用していたかを聞き取り、必要に応じて利用していたサービス提供側にも情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で観察し、記録を取ったり、ご本人やご家族から聞き取ったりしながら、今出来る事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング、カンファレンスや日々の申し送りの中で、スタッフ同士で意見を出し合い、介護計画を作成している。	利用者の日々の状況は、個人記録簿やケア日誌に記載している。また、月1回のモニタリングは、担当職員が実施し、全職員でカンファレンスを開催して介護計画書を作成して、ケアに結び付けている。	日々の記録を精査するなど、日々の記録と介護計画のケアの方向性が一貫したものとなるよう記録のあり方について検討されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やカンファレンス、申し送り等で情報を共有し、担当職員がモニタリングを主にを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況により、キーパーソンが変わったり、変化したニーズに対応出来るよう準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご兄弟、近所のご友人、介護保険外のサービス等の国の地域資源を把握するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されているかかりつけ医と連絡を取りながら、往診や受診介助を行っている。	2週間に1度、協力医による往診とともに、事業所が訪問看護ステーションと契約して、利用者の健康管理を行っている。かかりつけ医への家族対応の受診には、日頃の状況記録の写しを家族に渡して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師の訪問時に個々の状態を伝えるようにしている。変化がある際は随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当看護師やご家族に細かい細かく申し送りを行い、入院中は度々お見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にDNARの確認と共に、書類に署名して頂き、こちらのサービスの説明を行っている。	入居契約時に、利用者・家族から蘇生医療等緊急時の医療対応等についての意思確認を行っている。この意思確認については、その後も継続的に6ヶ月に1度実施し、今後の重度化や看取りなどのケア対応等に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救急救命の講習会や看護師から緊急時の対応の講和を聞く等、定期的に学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行っている。 運営推進会議で災害対策を相談したり、実際に車で移動し避難する訓練も行っている。	年2回隣接している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、避難訓練・消火訓練を実施している。災害時の地域指定避難場所への移動を実際に利用者で行う等、災害時に備えての取り組みを行っている。今後は、近隣の避難場所として提案するなど、地域との結びつき強化を模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格や利用者様同士の関係性に配慮しながら声かけや対応を行っている。	男性利用者が半数を超えているため、トイレや入浴時に男女が交差しないようにしている。入浴は、男女で入浴日を変え、入浴時には「入浴中」という札を下げて、快適な空間が保てるよう配慮している。職員間の利用者に係わる情報交換は事務所で行うなど、配慮した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常どの場面でも、やりたいか、やりたくないか、何がしたいのかと選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが崩れないよう配慮しながら、本人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のこだわりを尊重し、ご本人のしたいように身だしなみやお化粧等を行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	静かな音楽をかけ、会話を楽しみながら食事をし、行事等では利用者様の希望を反映させられるよう意見を聞いている。 衛生に配慮し、片付けを一緒に行っている。	食事は、法人の給食センターで調理したものが提供されるため、管理者が月1回の給食会議に出席して、利用者の意向を伝達している。食事中は、音楽を流したり、利用者が穏やかな気持ちで食事ができるように座席を工夫したりするとともに、誕生会や季節料理など、独自の食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、本人の健康状態を把握しながら栄養が摂れるよう努め、水分はどんどん摂れるよう何度でもお茶やコーヒー等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は歯科受診をし、毎食後口腔ケアが出来るようセッティング、声かけや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が無いように、一人一人の行動によるトイレサインやトイレのタイミングをスタッフ同士で把握し、ケアしている。	利用者全員が、トイレでの排泄を行っている。パットやおむつの使用方法や交換頻度については、利用者の意向や排泄状態を把握して、清潔を考えた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表や食事量をもとに便秘にならないよう水分摂取や緩下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したくない場合は、日をずらしたり、更衣のみして頂いたり、個別に対応している。	原則週2回の入浴を実施している。入浴を嫌う利用者に対しては、入浴に結びつくよう、天候や時間の把握をしながら実施している。それも困難な時には、着替えや足浴での対応を行い、清潔を保てるように努めている。職員は、入浴時の利用者との会話などから、その人をより知る機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の馴染みの寝具を使ったり、気温を調節し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスで何の病気でどんな薬を飲んでいるのか話し合い、主治医・薬剤師の指示のもと服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一つ一つやって頂いた事はお礼を言い、張り合いが持てるよう支援し、出来る範囲で嗜好品を個々に楽しんでもらっている(ジュース・お菓子等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外に出たい方には、希望に沿って出かけられるよう見守り、付添い支援し、外出支援もご家族と協力しながら行っている。	利用者の体内リズムを整えるうえでも、利用者の散歩や買い物は、可能な限り利用者の意向に沿った支援を実施している。また、家に帰りたいと事業所を出て歩いている利用者には、職員が付き合い、気が済んだ頃合いをみて事業所に帰る対応をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご家族と相談しながら個々に応じて行っている。 買い物に同行し、使える機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話や手紙のやりとりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	丁度良い室温に調整し、季節感のある飾りや植物等を置けるよう工夫している。	共用部分の掃除も職員が利用者と一緒にいき、自分達の居場所としての意識が持てるよう取り組んでいる。また、BGMを流したり、アロマを焚いたりして、快適に過ごせる空間作りを実践している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では好きなように過ごせるよう、椅子を置いている。 一人になれるような広さはないので、一人になりたい方は居室へ行かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた家具や寝具等を持って来てもらい、工夫している。	居室は、自宅の環境に近いよう、家具の配置や装飾等、一人ひとりの意向を尊重した環境作りを心がけている。一方、しまい癖がある利用者については、家族と相談しながら衣類を事業所で預かり、安全面も考慮しながら環境を整える支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危ない物は置いていない。 段差のないフロアで、戸は全て引戸で、出入りしやすくなっている。		